

日本在宅 医学 会誌 Vol.12 No.1

The Japanese Academy of Home Care Physicians

○巻頭言			
第12回日本在宅医学会大会	和田 忠志	1	
○会長講演			
格差社会と在宅医療	前沢 政次	7	
○大会長講演			
あおぞら診療所と在宅医療	和田 忠志	11	
○大会記念講演			
わが国の在宅医療はどうあるべきか	黒岩 卓夫	15	
○大会記念シンポジウム「在宅医学の展望」	大島 伸一, 前沢 政次	17	
○市民公開国際シンポジウム「成人虐待に対応する」在宅医療助成 財団法人勇美記念財団助成企画			
成人虐待に対応する	多々良紀夫	25	
松戸市における高齢者虐待防止の取り組みについて	市場 卓	27	
テキサス州成人保護サービスの概観, 及び緊急対応, 警察連携, 事例支援終結について	Cody Brady	31	
セルフ・ネグレクト	James G. O'Brien	33	
高齢者虐待対応専門員の養成について	小林ミドリ	35	
○シンポジウム (1) 「医科・歯科連携」(シンポジスト: 原 龍馬, 白髭 豊, 金子みどり, 角町 正勝, 小山 珠美)		39	
○シンポジウム (2) 「非がん疾患に在宅緩和ケアの光を!」(シンポジスト: 平原佐斗司, 藤田 愛, 荻野美恵子)		51	
○シンポジウム (3) 「小児在宅医療」(シンポジスト: 前田 浩利, 緒方 健一, 高橋 昭彦, 梶原 厚子, 望月 成隆)		59	
○教育講演 (1) 「地域リハビリテーション」			
誰もが住み慣れた地域で, 安心して心豊かに住み続けるためには	澤村 誠志	73	
○教育講演 (2) 「老年医学と在宅ケア」	James G. O'Brien	75	
○教育セミナー (1) 「褥瘡」(講師: 下元 佳子, 堀田 由浩)		77	
○教育セミナー (2) 「在宅医療における医療連携」(講師: 谷水 正人, 永井 康德)		81	
○ランチョンセミナー(講師: 高瀬 義昌, 角田 直枝, 石川 朗, 壺井 康一, 英 裕雄, 小笠原文雄, 鈴木 央, 中村 育子, 茅根 義和)		89	
○指導医大会「コーチングの基礎」	小野沢 滋	99	
○報告			
高齢心不全患者訪問診療におけるβ遮断薬の心血管イベント抑制効果の検討	小山 憲, 栗屋 透, 山川 宙, 伊禮 倫子	103	
がん在宅看取りの難易度分類と在宅看取り率	小笠原文雄	109	
○症例報告			
最小限の輸液で102日間在宅生活した肺癌の1例	大津 秀一	113	
日本在宅医学会雑誌投稿規定	117	連絡票	119
投稿承諾書	118	編集後記	121

第12回日本在宅医学会大会

医療法人財団千葉健愛会理事長 和田忠志

2010年2月27日・28日と千葉県幕張で第12回日本在宅医学会大会を開催致しました。雨天にもかかわらず、960人余の参加者に恵まれました。諸所の不手際があり、参加の方々には不自由をお掛けした点もございますが、なんとか大会を終えることができましたのも、この大会を指導して下さった方々、支えてくださった方々、ご参加頂いた方々のお陰であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。急速な人口構成の高齢化・少子化とともに、わが国の医療は、これまで経験しなかった大きな変貌を遂げようとしています。既存の医療形態や制度に対する先入観は通用しなくなりつつあり、新しい考え方が要請されています。このわが国の医療に、在宅医療が極めて重要な医療形態であることは疑う余地がありません。日本在宅医学会は佐藤智先生のご指導の下に、先進的に在宅医療の重要性を認識し、活動を蓄積してきました。とき同じくして、昨年には、一般社団法人「全国在宅療養支援診療所連絡会」も発足し、ますます在宅医療の裾野が広がろうとしています。このような多くの識者の活動蓄積の下にこの大会を主催できたことを、本当にうれしく思います。

在宅医療に対する考え方は、いろいろあると思いますが、私たちは「いかなる人にも在宅医療の恩恵がわたるべきだ」と考えています。高齢者のみならず小児にも在宅医療を必要とする人がいます。がんのみならず非がんの人たちの在宅緩和ケアが問題です。また、本当に救いを求める人はしばしば声を上げません。この地域に埋もれた「声なき声」を聴くことが、私たちに求められています。

このような趣旨から、第1日目には、在宅医療を鳥瞰する黒岩卓夫先生による記念講演、日本を代表する識者による在宅医学を展望する大会記念シンポジウム、声なき声を聴くために「虐待」の問題を取り上げた国際シンポジウム（同時通訳・市民無料）を行ないました。大会記念講演・シンポジウムでは、わが国の在宅医療の現状と抱える問題、そして、今後とり組むべき課題が明らかになったと思います。また、国際シンポジウムでは、世界で最も先進的な虐待対応、わが国で最も先進的な取り組みを紹介できたことをうれしく思います。

第2日目には、「非がん疾患の在宅緩和ケア」、「小児在宅医療」など、これまで十分注目されてこなかった分野での深い討論を展開し、多くの参加者を得ました。また、「全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会」とタイアップし、「医科・歯科連携」に関する包括的な討論を行いました。わが国の在宅医療における医科・歯科連携の推進の一つの布石となったと信じます。

この学会誌に、大会の討論が掲載され、会員の方々に多くの示唆を得て頂くことを期待しています。